

事務事業評価シート

評価対象年度 平成 26 年度

【事務事業の基本的事項】

事務事業名	JFA夢先生招聘事業			
担当課係名	教育指導課	課	教育指導係	作成者 田口和典
総合計画での位置づけ	施策の大綱	明日を担う人材を育む教育文化のまち		総合計画のページ
	基本計画	学校教育の充実と教育環境の整備		
	主要施策	基礎学力向上と心の教育の充実		94
予算費目	一般	会計	10 款 教育費	1 項 北浦教育文化研究所 5 目 北浦教育文化研究所費
事業期間	平成 25 年度 ~ 平成 年度		新規/継続の区分	継続
性質区分	<input checked="" type="checkbox"/> 市民サービス <input type="checkbox"/> 公共事業 <input type="checkbox"/> 施設維持管理 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 内部管理			
根拠法令等				
事務区分	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務			
運営方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 直営(一部民間委託) <input type="checkbox"/> 民間委託(全部) <input type="checkbox"/> 補助			

【事務事業の実施内容】

事業の対象 (誰のため・何を)	市内小学校の5年生児童
事業の目的・意図 (どういう状態にしたいのか)	仙北市の小・中学校の教育目標である「ふるさとを愛し、豊かな心と健やかな体を持ち、確かな学力を身に付けた仙北の子ども」のうち、特に将来の夢や希望をもつなど児童生徒の豊かな心を育てる。
事業の内容 (どのような業務、活動を行うのか)	JFA(日本サッカー協会)が、日本や世界で活躍するアスリートを学校に派遣し、児童生徒に夢の実現に関する授業を実施する。

【事務事業の推移】

		項目	単位	25年度実績	26年度実績	
効果	活動指標	目標	校	6	7	
		実績	校	6	7	
		達成度		100.0%	100.0%	
	成果指標	目標	校	6	6	
		実績	校	6	6	
		達成度		100.0%	100.0%	
投下コスト	項目		総事業費	25年度決算額(千円)	26年度決算額(千円)	
	事業費(人件費を除く)(A)			500	1,200	
	人件費(B)		—	819	854	
	職員数	—	0.10	0.10		
	職員平均人件費	—	8,192	8,540		
	(A)+(B) 投下コスト		—	1,319	2,054	
	財源内訳	国庫支出金				
		県支出金				
		地方債				
		その他				
一般財源			1,319	2,054		
単位コスト	活動指標1単位当たりコスト(円)		—	219,833	293,429	
	市民1人当たりのコスト(円)		—	46	72	

【事務事業の今までの成果】

前田 治(元横浜Fマリノス所属選手、日本サッカーリーグ得点王)、福永 泰(元浦和レッズ所属選手)、古木克明(元横浜ベイスターズ所属選手)、中河昌彦(元名古屋グランパス所属選手)、立川隆史(元千葉ロッテ所属選手)を先生として、それぞれの競技人生の成功と挫折、夢の実現のために努力した事などを児童に紹介し、児童がこれから将来の夢をもちその実現のために努力しようとする意欲を喚起することができた。

【事務事業を取巻く環境】

国・県・他自治体の動向	文部科学省は平成23年5月に「小学校キャリア教育の手引き」を発刊し、その中で「子どもたちは自分の将来を考えるのに役立つ大人のモデルを見つけにくくなっており、これを様々な機会をとらえて示すことが重要」と指摘している。
事業に対する市民の意見 (事業に対する期待、要望、苦情等)	大人になった自分の姿を具体的に考え始める小学校5年生の時期に行つこの事業は教育指導面の効果が大きいという学校からの声がある。また、この事業の一環として児童が将来の夢を言葉にしまとめることについて保護者からも肯定的な声が多い。

【一次評価】

判定	事業の方向性	判定に至った理由
<b>B 1</b>	A 現状のまま継続（実施）	現役のJリーガー及びOB・OGや他のスポーツ選手等が「夢先生」となり自分の体験をもとに「夢をもつこと、それに向かって努力することの大切さ」「仲間と協力することや、助け合うことの重要性」などを講義と実技を通して児童に伝えるこの事業は、それぞれの「夢先生」が挫折を通して夢をもつことの大切さを訴えることで児童の心に深く染みいるものになっている。今後は中学生用のプログラムの導入を検討したい。
	B 1 見直しの上で継続（拡大）	
	B 2 見直しの上で継続（手段改善等）	
	B 3 見直しの上で継続（縮小）	
	C 1 大幅な見直しの上で継続（拡大）	
	C 2 大幅な見直しの上で継続（手段改善等）	
	C 3 大幅な見直しの上で継続（縮小）	
	D 休止・廃止（統合を含む）を検討する事業	
	E 終了（完成及び目的を達成し終了した事業）	

※一次評価の判定がB～Dのときは、下記に必ず記入すること。

【具体的な今後の取組内容（改善の方向性、対象、意図、手段等について記載すること。）

事業前後の児童への指導が重要であるので、各学校での道徳(夢をもって、あきらめずに努力しようとする意欲を育てる、1-(2)第5学年)、総合的な学習の時間(社会と自己とのかかわりから、自らの夢や希望をふくらませる)等との関連を深めることが必要である。

【二次評価】

判定	判定に至った理由
<b>B 1</b>	児童への教育効果はもちろんであるが、進路選択を控えた中学生にも導入が望まれる。

